



学校通用門の「大山門」

栃木県立那須拓陽高等学校

在来ダイズの有機栽培と品種保全に関する研究

県立3校が取り組む在来大豆栽培

3校ならではの役割分担

栃木県西那須野地域では、前身が農学校の那須拓陽高等学校、工業系の那須清峰高等学校、那須特別支援学校(高等部)の県立3校が、共同で地元在来大豆の有機栽培研究をしている。大豆を対象としたきっかけは、「大豆で地元貢献」を目的に活動している拓陽SoyPro 同好会という部活動の存在だが、拓陽の益子祥紀農場長は「大豆自給率の改善や在来大豆の品種保全も動機です」と話す。そこで、活動を教科の課題研究に拡大するとともに、近隣2校と協力することにした。

それぞれの役割は、拓陽が様々な在来大豆の有機栽培研究、特支がその小規模栽培の実践、清峰が収穫後に種子を選り分ける粗選機の製作と分かれており、活動は助成1年目となる2022年度から始まっている。



3校の先生と生徒。那須拓陽高校の校舎入口で



旋盤などを駆使して粗選機を製作



特支の生徒とSoyPro同好会で除草作業



大豆は収穫後の選別作業が一番たいへん

農工連携で広がる未来

2022年度は、拓陽が「BLOF理論」という科学的な有機栽培法を研究し、齋藤恵美科長のもと特支の生徒たちと「加治屋在来」大豆の栽培・収穫を実施。清峰では小林誠一科長が「まだ改善点は多いです」と言うものの、ドラム式の電動粗選機を完成させた。今年度はその改良と唐箕機能の追加を目指す。生徒たちは「先輩を超えるものを作りたい」(大森祐輝さん)と意欲的だ。拓陽SoyPro同好会会長の田村歩未さんは「在来大豆の食べ比べをしてみたい」と微笑む。特支の生徒は、同好会が行ってきた地元マルシェでの大豆販売に参加することを予定している。

「こうした農工福(福祉)連携が新たな価値創造につながればと思います」という益子農場長の言葉を受けた特支の岩崎俊大教諭は、「地元産業などを巻き込む活動に拡大して、生徒が学校で学んだことを職業生活などに活用できるようにするのが理想です」と期待を膨らませている。(プログラム助成)



粗選機。ドラム内のソフトボールでさやを割る



●実施担当

益子祥紀 農場長

●活動のモットー

競争ばかりでは長続きしないので、生徒には仲良く、協力のなかで新しいものが生まれることに喜びを感じてほしい。

学校概要



校訓は「耕学一如」「冷暖自知」。普通科、農業系3学科、家庭系1学科を設置する。SoyPro同好会や牛部など独特の部活動がある。

設立: 1945年

生徒数: 696人

所在地: 栃木県那須塩原市下永田4-3-52

この活動は、中谷医工計測技術振興財団の「科学教育振興助成」により行われています。



公益財団法人

中谷医工計測技術振興財団

〒141-0032 東京都品川区大崎1丁目2番2号 アートヴィレッジ大崎 セントラルタワー8階

中谷財団

検索



シスメックス株式会社創立者の故・中谷太郎氏が私財を投じて設立。医工計測技術分野の発展を願い、「中谷賞」をはじめ各種研究助成、若手研究者支援や国際交流事業を展開。さらに、すそ野拡大のため、科学教育振興活動などに対し、幅広い助成事業を行っています。